令和7年度　大館市立早口小学校　学校評価書（　前期　・　年度）

A　学校教育目標

未来を見つめ　はつらつと学び　共に輝く　子どもの育成

めざす学校の姿

☆楽しく学び、達成感や自己有用感を抱く学校（子ども）
☆経営方針や様子が分かり、信頼できる学校（保護者）
☆子どもの元気が届き、応援したくなる学校（地域）
☆学び合い、高め合い、力を発揮できる学校（職員）

めざす子どもの姿

は：はつらつと伝え合う子ども
や：やさしく親切な子ども
ぐ：くじけずに取り組む子ども
ち：ちいきを愛する子ども

経営の重点

人皆に美しき種子あり「**TANEPRO CHALLENGE!**」
「心はいつでもあたらしく　毎日何かしらを発見する」
～自他の幸福につながる「自立・感謝・貢献」のふるさとキャリア教育～
チーム早小のウェルビーイング

重点１　学力の定着と向上

□基本的学習習慣、学習規律の確立
□意欲を高め、子どもが活躍する授業の推進
□確かな学力の向上と
　共感的・協働的学び合いの推進
□ユニバーサルデザインを基盤とする
　学習環境の充実

重点２　豊かな心の育成

□元気なあいさつと返事の奨励
□何でも言い合える学級づくり
□安全・安心でみんなが気持ちのよく
　すごせる学校づくり
□道徳科・道徳教育の充実
□思いやりの心を育む特別活動の推進

キーワードは…

K
・気付き
・考え
・行動する

早小 KC Mind
自立・感謝・貢献

C
・チャンス
・チェンジ
・チャレンジ

重点３　健康教育の充実

□基本的生活習慣の定着
□健康・安全教育の充実
□体力テストの結果を生かした体力つくり
□食育・保健教育の充実

重点４　家庭・地域との連携

□ふるさとキャリア教育の一層の充実
□「早口川の徒渡り」の確かな継承
□地域素材・人材を活用した
　多様な体験活動の展開
□ふるさと早口を愛する心、感謝の気持ちで
　地域貢献しようとする態度の育成

めざす教師の姿

○愛情と情熱をもち、子どもとともに歩む教師
○自ら研修に励み、学び続ける教師
○家庭や地域と連携し、信頼される教師

子どもを支える地域・家庭

○自己有用感を育む温かい地域・家庭
○安全・安心に過ごせる地域・家庭
○子どもの夢を大切に育む地域・家庭

教師集団（チーム早小）　**情報発信・情報共有、協力・連携、提言**　学校運営協議会

記念事業航空写真「150年パワー」

150周年記念集会集合写真

33回目の「早口川の徒渡り」

学校評価Aと学校関係者評価の評価区分	きわめて良好	学校評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100％以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99％達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79％達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59％達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39％以下の達成

ア　児童の状況

Ⅰ　自主的・自立的な生活

児童生徒の状況		学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
明るく心のこもった挨拶をし、規律ある落ち着いた生活を送りながら、主体性や責任感を育もうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	児童数の減少により、登校班が小規模化しているが、あいさつも近所の会社まで響くようによくなってきている。お手伝いや生活時間の過ごし方が家庭によって違い、個別に課題になっている。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	子どもたちの反応する力を育てようとする協働姿勢が共有されている。さらに相手意識を育み、主体的な動き、自主性を育むことで前向きになっていくと感じている。挨拶についても同様に育ててほしい。

学校評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】
〇運営委員会のあいさつ運動に加えて、なかよし班で「あいさつもらい隊」を行った。また、小中連携あいさつ運動を実施し、中学生と交流したことが互いによい刺激となった。→活動中は自発的なあいさつを意識できたが、校外や活動時以外の場においての習慣化に課題が見られる。日常的な指導を継続しながら意識向上を図る。また、月に1回の「あいさつもらい隊」を継続していく。
〇小中連携自立プランについてPTAで話題に取り上げ、家庭との共通理解を図った。また、生活習慣をより意識して改善できるように、今年度は3つの項目に焦点を当てて取り組んでいる。→学校と家庭の両方で働きかけながら、基本的生活習慣の形成を図る。
〇交通安全や学校生活の約束について、危険な場合はその都度伝え、登下校指導等を行い、注意喚起した。→「早小7ルール」の意識付けをするために、全校集会で運営委員が呼びかけをしていく。
〇校内では、掃除、体力テスト、なかよし班遊び、元気農園活動等を通して他学年との交流ができた。また、校外では、羽州街道の旅で碇ヶ関関所、弘前城へ行った際に、なかよし班で活動することで交流を深めることができた。→今後も高学年を中心に、他学年と交流できる場を設定していく。
〇運動会のテーマ、児童会テーマについて各学級で話し合った。その後、各学級の意見を6年生でまとめ、全校に報告した。児童総会では新たな意見が出るなど意見交流ができた。→今後も行事に向けての話合いの場を学級で設定していきたい。また、積極的に学級会を行うよう声掛けをしていきたい。

【年度（→次年度）】
〇あいさつもらい隊を継続して行い、小中連携あいさつ運動も実施することで自発的なあいさつを意識することができた。→より自発的なあいさつの習慣化を図れるように、あいさつもらい隊のあり方を見直し、児童総会でもあいさつをテーマに話し合うことであいさつの必要性を考える場を設定していく。
〇小中連携自立プランについて、学年通信で家庭に周知した。今年度より、3つの項目に焦点を当てて取り組んでいる。また、お手伝いの習慣化を図るために、昨年度に引き続き音読カードにお手伝いのチェック欄を設けている。→お手伝いの自主的な取り組みに課題があるとアンケートで意見が挙がったため、小中連携自立プランをさらに活用するための取り組み方を検討したい。また、お手伝いのチェックの仕方も新たに考え、保護者の方々の負担が大きくならないように実施していきたい。
〇「早小7ルール」の意識づけのために、全校集会で運営委員が呼びかけを行った。→「早小7ルール」の定着を図るために、全校集会での呼びかけだけでなく、ポスター掲示や、放送などでも呼びかけをしていく。
〇ありがとう集会では、子どもたちが主体となって運営し、新なかよし班の顔合わせやなかよし班遊びを通して、異学年交流を深めることができた。また、農園活動では、保育園児と一緒にさつまいも掘りを行い、思いやりの心を育む交流ができた。全校集会では各委員会に発表の機会を設定することで、委員会活動への意欲を高め、学校全体への参画意識を育てることができた。
→6年生が先頭に立って活動する場を意図的に設定し、リーダーシップを発揮できる機会を増やす。昼休みのなかよし班遊びを計画。負担軽減のため、活動内容やゲームを学校側で設定し、無理なく実施できるようにする。5年生の負担が大きくならないよう、役割分担を見直し、複数学年で協力する体制を整えたい。
〇学級の実態に応じて、主体的な係・当番活動を実施することができた。
→今後も指導部や委員会から話題の提案を行う。また、児童総会に向けたあいさつについての話合いを、「7ルール」と関連付けたテーマとして会議で提案し、学級会で主体的に話し合う活動を進めていく。

評価指標	実践課題	主な取組	学校評価B 前期	学校評価B 年度
1　基本的な生活習慣の確立	(1)　正しい言葉遣いと明るいあいさつの習慣化	学校内外での明るいあいさつ　小中連携あいさつ運動　正しい言葉遣いの指導	3	3
	(2)　自立に向けた基本的生活習慣の形成	小中連携自立プランの活用と定着　家族の一員としての自主的な手伝い習慣の奨励	3	3
	(3)　生活の約束を守る姿勢・態度の定着	児童主体の早小7（セブン）ルールの実践　生徒指導だよりの発行	3	3
2　集団生活・集団活動	(4)　自主的・実践的な態度を育てる特別活動	学校行事・元気農園活動・児童会活動・集会活動等への自主的・積極的な参画と運営　異学年同士で認め合い協力し合う縦割り活動	4	4
	(5)　明るさとやる気に満ちた学級集団の形成	学級活動の充実　主体的な係・当番活動への取組　学級会の主体的な話合い活動	4	4

★実践　〇児童　□保護者　■教職員

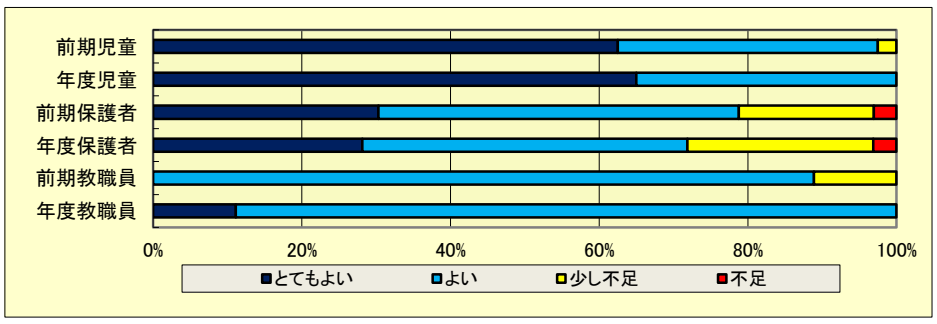
[1基本的な生活習慣に関するデータ]

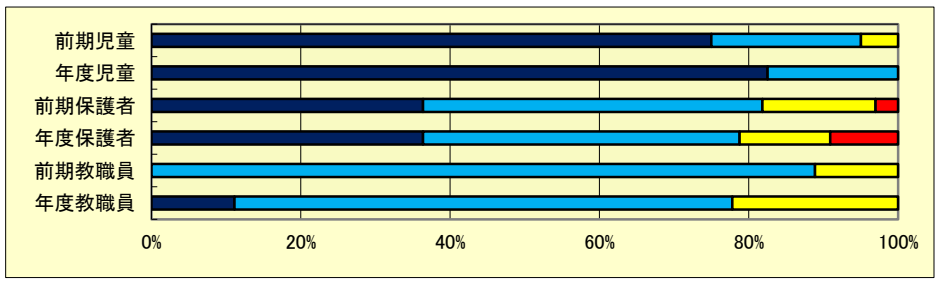
（1）正しい言葉遣いと明るいあいさつの習慣化
〇進んで元気にあいさつしている。
□本校の子どもたちは自分から元気にあいさつができているか。
■校内外での明るいあいさつ、正しい言葉遣いができているか。

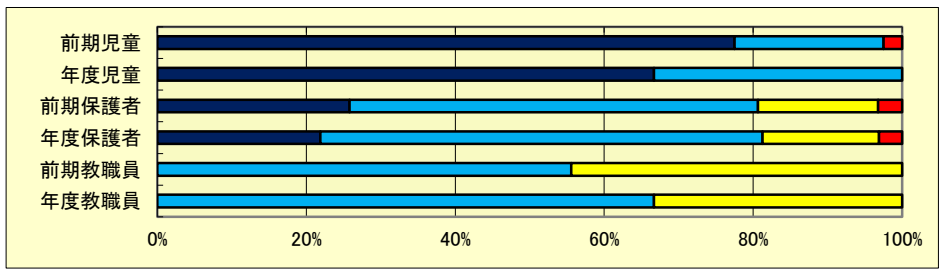
（2）自立に向けた基本的生活習慣の形成
〇学校の準備などを自分でしている。
□自分で学習の準備をしたり家のお手伝いをしたりしているか。
■自立に向けた基本的生活習慣ができているか。

（3）生活の約束を守る姿勢・態度の定着
〇交通安全のルールや学校、家の約束を守って生活しているか。
□交通ルールや学校、家庭の約束を守っているか。
■生活の約束を守る姿や態度が定着しているか。

★小中連携あいさつ運動・学年あいさつ運動

（1）


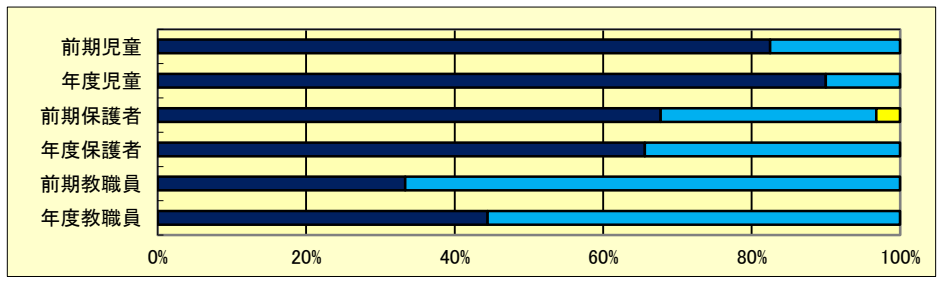
（2）


（3）


[2集団生活・集団活動に関するデータ]

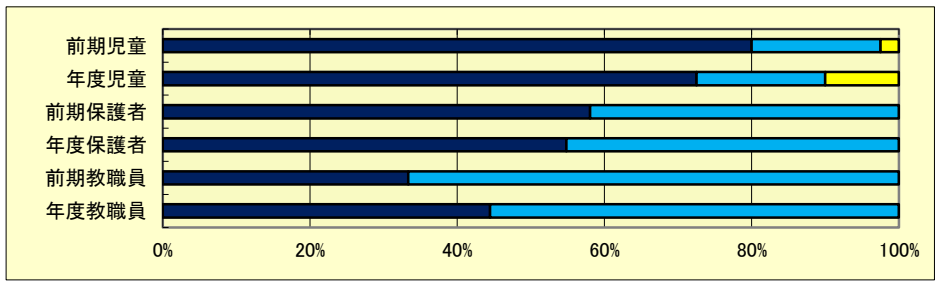
（4）自主的・実践的な態度を育てる特別活動
〇学級の行事や委員会活動、チーム活動、なかよし班でのそうじなどに進んで取り組んでいる。
□行事や児童会活動、はつらつプロジェクト、はつらつチーム活動等は主体性や実行力を育んでいるか。
■自主的・実践的な態度を育てる特別活動となっているか。

（5）明るさとやる気に満ちた学級集団の形成
〇学級の係や当番活動、学級会の話合いに進んで取り組んでいる。
□係や当番活動、学級会が工夫され主体的に取り組んでいるか。
■学級の係・当番活動、学級会の主体的な話合い活動ができているか。

（4）


★新なかよし班顔合わせ
→なかよし班遊び

★クラブ活動（地区文化祭）

（5）


ア　児童の状況

Ⅱ　豊かな心

児童生徒の状況		学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
自分らしさを発揮しながら、夢の実現に向かって努力する、豊かな人間性を育んでいる。	前期	良好	良好	徒渡りなどの代表行事に子どもたち自身が自分から取り組み、その活動の中で思いやりの心が育まれている。幼小の連携や、複式学級内での隔たりのない関係性もよい効果を上げている。
	年度	良好	良好	学習発表会・記念集会・ありがとう集会などで自分らしさを表現し生き生きと活動している。 150周年の一人ひとりの自覚を促し、役割を分担し全員で向かう姿勢が良い。地域の協力に対し、元気と感謝を伝える気概があり、次の世代につなぐという思いが育っていると感じられる。

学校評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】
〇徒渡りや元気農園活動等において、異学年交流や地域の人材を生かした活動に取り組んだ。活動を通し、互いのよさや頑張りを認めたり、地域への誇りと感謝の思いを実感したりする様子が見られた。道徳の学習においては、自分との関わりとして考えられるよう、行事や日常生活の場面を想起しながら課題を設定した。また、学校行事等のねらいに道徳の価値項目を明記し、教員間で意識付けを図った。→相手意識をもち、その場に応じた言葉選びができるよう引き続き指導し、より一層思いやりの心を育てていきたい。
〇週1回の子どもを語る会や月1回の教育相談を通し、児童の実態把握に努めた。また、児童の頑張りを職員間でその都度共有し、指導を行うことができた。
→情報を共有しながら児童の実態把握に努め、所属意識が高まるような学級活動を工夫していく。
〇温かい雰囲気で異学年交流を進めていけるよう、なかよし班顔合わせ後、班のメンバー全員で遊ぶ時間を設けた。高学年が企画・運営し、リーダーシップをとりながら異学年で楽しく交流した。徒渡りの活動では、地域の方々と関わりながら活動するとともに、徒渡りについて他校へPR活動を行ったり、羽州街道について学んだことを発表したり、自分の役割を自覚しながら一人一役で活動に取り組んだ。→今後も自己有用感を高められるよう、活動の目標と目的意識をもって取り組めるような場の設定をしていく。

【年度（→次年度）】
〇道徳の時間を通し、互いの考えを共有しながら認め合える場を設定したり、学校行事に道徳の価値項目を位置付けて日常との関連を図ったりした。また、「美しき種子」活動や創立150周年を軸とした行事を通して、地域や保護者との関りがより深まる体験活動を行った。ありがとう集会では、児童が中心となって会を運営し、お世話になった方々に感謝の思いを伝えた。→今後も異学年や保育園との交流、地域との関わりを大切にし、多様な価値観に触れながら、思いやりの心を育てていきたい。
〇子どもを語る会や教育相談、いじめアンケート等で定期的に情報交換しながら児童について共通理解を図り、いじめや不登校等にチームとして対応した。また、帰りの会に友達の良いところを褒める時間を設定し、自他のよさを認め合えるようにした。→今後も児童理解に努め、家庭との連携を密にしながら個々の思いに寄り添った対応をしていく。
〇「美しき種子」活動やなかよし班活動では、個々の役割を自覚しながら積極的に交流活動に取り組んだ。4年生は、社会福祉協議会と連携したはつらつ弁当事業への協力、5年生は、今年度も、元気農園で収穫したさつまいもとお米を早口の市日で販売する活動行った。6年生は、山瀬小学校や田代中学校、大館市教育委員会にて徒渡りのPR活動を行った。また、地域の施設にポスターを配りに行って、地域を盛り上げようと活動した。→今後も一人一役で地域貢献に取り組み、自己有用感を味わいながら地域とのつながりを深めていきたい。

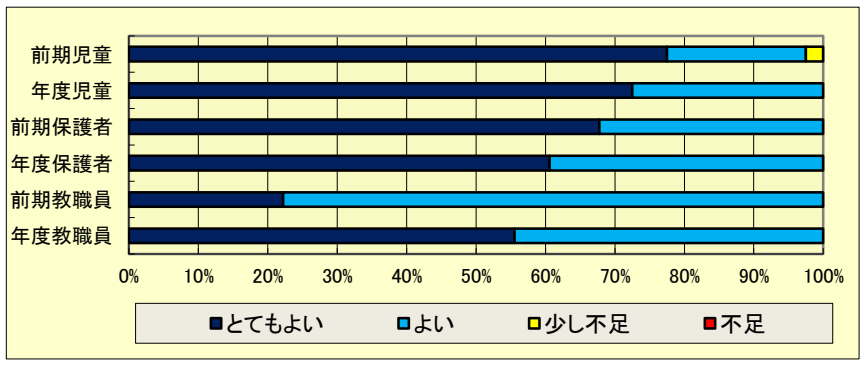
	実践課題	主な取組	学校評価B 前期	学校評価B 年度
3　思いやりの心の育成	（6）　思いやりのある行動を育む環境と活動	ふるさとに広げる「美しき種子」活動（徒渡り・元気農園・はつらつ弁当）　道徳と日常活動との関わり	4	4
4　豊かな体験活動	（7）　自他のよさを認め合う学級づくり	学級目標の実現　認め合う学級活動　心の居場所づくり　生徒指導の機能を生かした授業　いじめアンケート・児童理解の会の活用　教育相談日の充実	4	4
	（8）　一人一人のよさの発揮と自己有用感の育成	学年のよさを生かすなかよし班活動　主体的な集会活動　交流活動の充実　「美しき種子」活動（元気農園・徒渡り等）を通した地域貢献	4	4

★実践事項　　〇児童　　□保護者　　■教職員

[3に関するデータ]

（６）思いやりのある行動を育む環境と活動
- 〇 道徳の時間には自分の行動や生活を振り返って考えたり、友達の気持ちを考えたりしている。
- □ はつらつ元気農園や縦割り活動、道徳教育などで、子どもたちに豊かな心を育んでいると思うか。
- ■ 道徳教育、縦割り活動、「美しき種子」活動などで思いやりの心を育んでいるか。

（６）



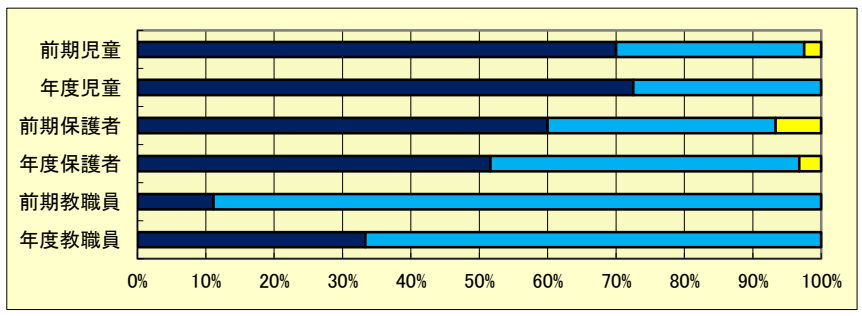
★農園活動で収穫したさつまいもを使ったはつらつ弁当のレシピ（料理）

★感謝を伝えたありがとう集会

[4に関するデータ]

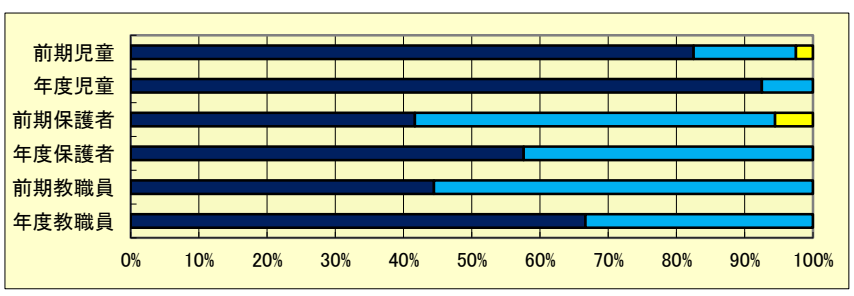
（７）自他のよさを認め合う学級づくり
- 〇 友達のよいところを見つけたり、紹介したりしている。
- □ 学校では子ども一人一人を大切にしお互いのよさを認め合う学級づくりを行っていると思うか。
- ■ 学級目標を実現する心の居場所作り・学級活動・生徒指導の機能を生かした授業・児童理解ができているか。

（７）



（８）一人一人のよさの発揮・自己有用感の育成
- 〇 はつらつ元気農園活動や徒渡りなどのふるさとキャリア教育で自分の種を育てようとがんばっている。
- □ 色別チームやなかよし班、集会活動、はつらつ元気農園、徒渡りなどを通して、子どもたち一人一人がよさを発揮し自分を大切にする心を育んでいると思うか。
- ■ なかよし班、チーム活動「美しき種子活動」などの交流・貢献活動によって、子どもたち一人一人が自己のよさを発揮し、自己有用感を高めているか。

（８）



★上学年がリードして取り組んだ元気農園活動

★市日に参加し、地域に発信したさつまいも・お米販売

ア　児童の状況

Ⅲ　健康と体力

児童生徒の状況		学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
健康や体力に関心をもち、望ましい生活習慣を形成しようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	体力は平均を保っており、計画的な取組の効果が出ている。メディアコントロールは、保健委員会を活用して周知が図られてきている。昼休みの遊びを推奨したい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	子ども主体の活動を生かし、PTAで親子睡眠学習ができていた。メディアコントロールに対し親子でルールを確認したり話し合うことは非常に良い。 熊や大雪でも、竹馬・縄跳び・室内遊びも推奨し、健康教育に計画的に取り組んでいる。

学校評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】
〇健康診断結果を保健だより等で家庭に周知するとともに、実態に合わせた歯の指導を行ったり、児童が主体となった健康的な生活の呼びかけを行ったりすることで、健康についての意識が高まった。→9月のメディアコントロール週間では、小中連携した委員会活動による全校への呼びかけや、実態調査結果を活用した保護者への働きかけを行っていく。また、学校栄養士や学校歯科医と連携した指導を実施予定。
〇わくわくマラソンを週2回中休みに実施。昨年同様、記録カードに運動会の結果と秋のマラソン記録会の目標・結果を記入する欄を作成。今年は行事の関係で回数が減ってしまった。→秋のマラソン記録会に向けて引き続きわくわくマラソンを実施していく。11月からわくわく縄跳びを実施。
〇昨年度の新体力テストの結果を踏まえ補強運動や体育の指導の改善が足りなかった。
　→本校の児童が苦手な運動領域の改善に向けた実践を提示したり、指導の仕方について共有したりしていく。

【年度（→次年度）】
〇2学期末PTAにおいて、親子で睡眠について考える学習会を実施し、家庭も含め、望ましい睡眠習慣を意識づけることができた。また、学校歯科医による歯みがき指導や栄養教諭による食育を全学年実施し、高学年では薬物乱用防止教室を実施した。→家庭の協力を得ながら、生活習慣の改善に向けた取組を継続して実施していきたい。
〇各学年でマラソン記録会を実施することができた。また、「がんばり山」「ジャングルジム」「竹馬」での遊びを通して、運動への参加を促す声掛けを行った。
→体育館の利用方法や割り当てを見直し、子どもたちが安全に体を動かせる場を増やす。また、「わくわく縄跳び」では、子どもたちが主体的に参加するための工夫も進めていく。

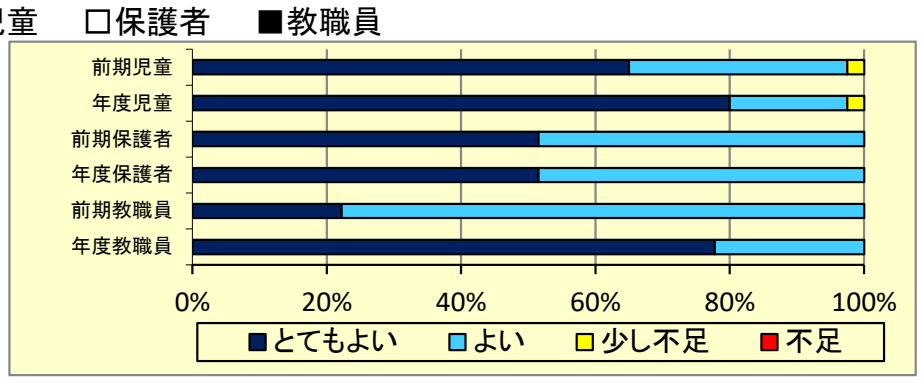
	実践課題	主な取組	学校評価B 前期	学校評価B 年度
5　健康教育	（9）　望ましい食習慣と健康教育	生活実態調査による実態把握　メディアコントロールカード・食育指導の充実 保健だよりの発行など保護者への啓発	4	4
6　体力の向上	（10）　業間運動への積極的な取組	わくわくマラソン・縄跳び　外遊びの奨励　徒競走・持久走記録会の実施	4	4
	（11）　新体力テスト結果の活用	昨年度結果の活用　体育学習での補強・準備運動	3	3

★実践　〇児童　□保護者　■教職員

〔5　健康教育に関するデータ〕

（9）望ましい食習慣と健康教育
〇 歯磨きやメディアコントロールなどへの取組をすすんでがんばっている。
□ 保健だよりの発行やむし歯予防・食育などの指導、メディアコントロールカードなどの実施は健康習慣への関心を高めているか。
■ 実態把握調査による実態把握、むし歯予防指導、保健だよりを通して児童の食習慣と健康習慣が改善されているか。

（9）



←
★2学期末PTA（全校児童、保護者）
「すいみん親子学習会」

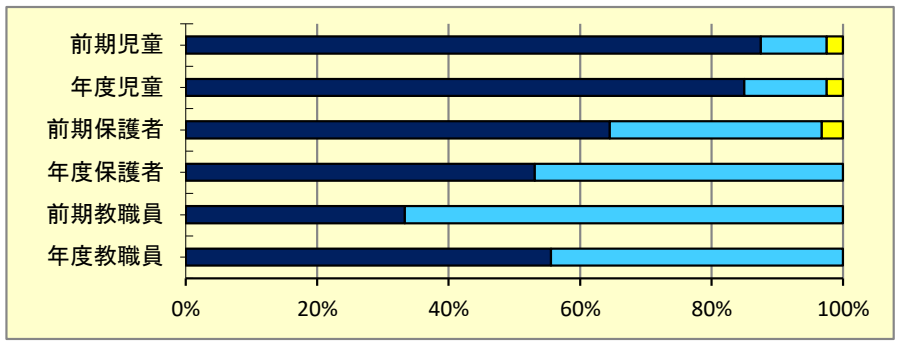
★薬物乱用防止教室（5・6年生）　→
講師：聖マリアンナ医科大学
堀口　忠利　氏

★5・6年食育「給食の献立を考えよう」

〔6　体力の向上に関するデータ〕

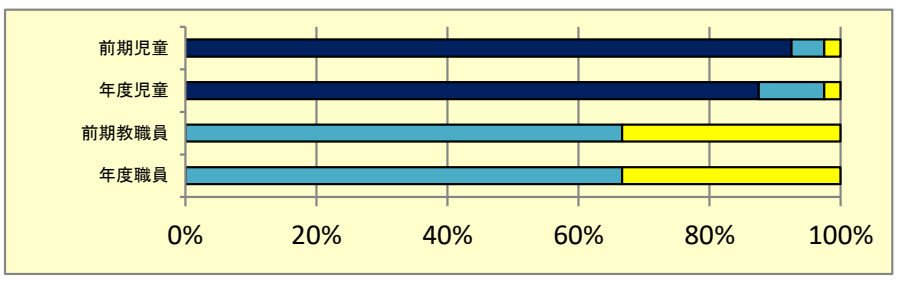
（10）　業間運動への取組
〇 わくわくマラソンなどの体力づくりに取り組んだり、外で遊んだりしている。
□ わくわくタイムのマラソンやなわとび運動、外遊びの奨励は進んで運動し体を鍛えようとする子どもを育てているか。
■ わくわくマラソンやなわとび運動、外遊びの奨励、持久走記録会の実施により児童の体力が向上しているか。

（10）



（11）　体力テストの結果の向上と活用
〇 体育の時間には、自分が苦手な運動にもがんばって挑戦している。
■ 体力テスト結果の分析・活用、体育授業での取組が体力向上につながっている。

（11）



★ マラソン記録会

★体育科

ア　児童の状況

Ⅳ　基礎学力

児童生徒の状況		学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
意欲的に学習に取り組み、基本的学習習慣を身に付けながら学力を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	授業への取組は向上してきている。さらに自分の思いを伝える表現力を鍛えたい。家庭学習の習慣化は家庭によって個人差が出ている。読書の取組もしくみを整えつつあるので習慣化を目指したい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	家庭学習では、好きなことを調べて、自分の興味関心を広げている場面があって良い。子どもの興味・興味があることを探す力は、主体的に調べて取り組む学習に繋がっていく。個に応じた指導を生かし、ひとりひとりの学力向上に努めて欲しい。

学校評価の概要と学校の改善策

【前期→（年度）】
〇学習カード等を活用して「早小っ子学びのルール」を確認したり、職員が共通理解をして指導を進めたりしたことで、学習の約束を守ろうとする児童の意識が高まってきた。→職員や児童が声を掛け合って、さらに学習の約束を守っていけるようにルールの徹底を図りたい。
〇家庭学習の習慣はついてきているが、学習時間や学習内容において個人差が大きい。→家庭学習ノートに貼った手引きの内容を折に触れて確認したり、家庭学習のよい例を他の児童や保護者に紹介して児童の意欲を高めたりするといった実践を継続したい。
〇図書委員会が図書室利用を呼びかけたり、授業で教科指導と関連付けた読書を進めたりしたことで、読書への意欲が高まってきた。→読書ファイルを親子読書の日に持ち帰り、カードに記入してある読書への取り組みの蓄積を、保護者に確認してもらう機会を設けることで、家庭でもさらに読書への関心が高まるよう呼びかけていきたい。
〇学び合いや深め合いを目的とした「はつらつタイム」を設定している。「はつらつタイム」の他にも、小人数やペアなど、児童の実態に合わせた話し合いの形態を工夫することで、課題解決に向かう姿が見られた。→授業で「はつらつタイム」を確実に取り入れ、考えが深まるような発問を教師が工夫することで、児童一人一人の学力向上を図っていきたい。
〇全国学力・学習状況調査は、国語は全国平均を上回ったが県平均を下回った。算数と理科は全国平均も県平均も上回った。→詳しく分析を行い、しっかりと回復指導をしていく。個人差が大きいため、個別指導に力を入れたり、授業の中でも類似問題に取り組んだりするなど、工夫して指導していきたい。

【年度（→次年度）】
〇学期始めに学習カードで「早小っ子学びのルール」を確認して達成具合を前学期と比較することで、児童自身が課題を見付けてその反省を生かして努力する姿が見られた。→さらに児童同士が自主的に声を掛け合うことで、学級全体で高めることができるよう、職員間で共通理解をして指導していきたい。
〇家庭学習ノートへの「めあて・日付・時間・振り返り」の記入や内容の工夫について声かけをしたり、ノート展等でよい例を友達と見合ったり保護者に紹介したりすることで、家庭学習への取組が充実してきた。→個人差への対応については、個々の取組に合わせた助言や指導をしたり、保護者との連携をさらに深めていったりしたい。
〇読書月間において、冊数やページ数の目標を大多数の児童が達成したり、毎週の家庭読書で読書ファイルを保護者に見てもらう機会が増えたことで、読書への意欲が高まったりした。→図書室のリニューアルにより読書がしやすい環境づくりに取り組んだり、図書委員会による呼びかけを工夫したりして図書室利用者数を増やしたい。
〇学び合いや深め合いを目的とした「はつらつタイム」を設定し、ハンドサインや話型を使って話合い活動を行うことで、学びを深める姿が見られた。→「はつらつタイム」の時間を確実に設定し、教師だけでなく児童にも「はつらつタイム」がどのような時間であるのか理解してもらい、授業の中で確実に実践していく。教師同志で学び合う研修の時間を確保したり、指導の取り組みを促したりしていきたい。
〇秋田県学習状況調査へ向けて、パワーアップタイムを設定し学力の定着を図った。3学期も、学習状況調査で落ちている部分を見極めて、パワーアップタイムで回復を図っていくこととしている。

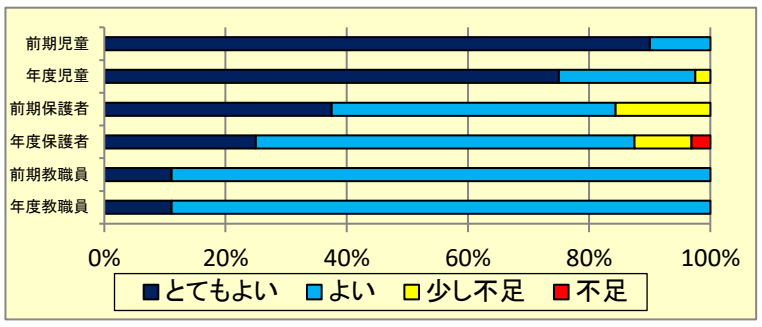
評価指標	実践課題	主な取組	学校評価B 前期	学校評価B 年度
7　学習への取組	（12）　基本的学習習慣の定着	早小っ子学びのルールの定着　学習カードの活用　花マルDAYの継続	4	4
	（13）　基礎・基本の確かな定着	はつらつと学び合う場の推進　パワーアップタイム等の継続実施　家庭学習の充実	4	3
	（14）　表現力を高める読書活動の充実	読書意欲を高める読書指導・読書運動　学年おすすめの本の活用　親子読書の奨励	3	4
8　授業改善と学力向上	（15）　授業力向上の職員研修	課題解決に向かう授業改善　共感的・協働的学び合い学習の推進　学び合う教職員	3	3
	（16）　諸検査の状況	全国学テ・県学習状況調査・学力調査の分析と活用・補充指導	4	4

★実践　〇児童　□保護者　■職員

〔7　学習への取組〕

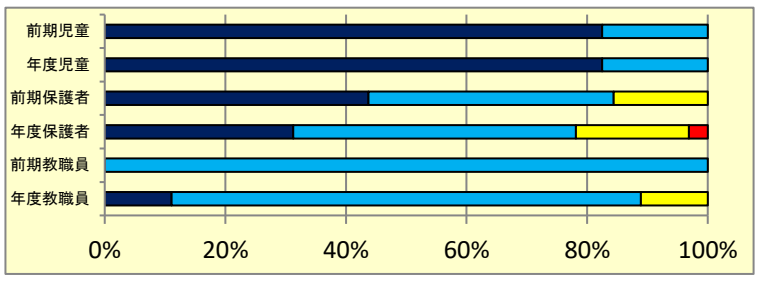
（12）基本的学習習慣の定着
〇 ハンドサインや話形、学習用具の整頓やノートの使い方などの約束を守って、学習している。
□ 基本的な学習習慣が身について、それぞれの学年に必要な家庭学習の時間を確保している。
■ 早小っ子学のルールの定着　学習カードの活用　花まるDAYの継続が学習習慣の定着に結びついているか。

（12）



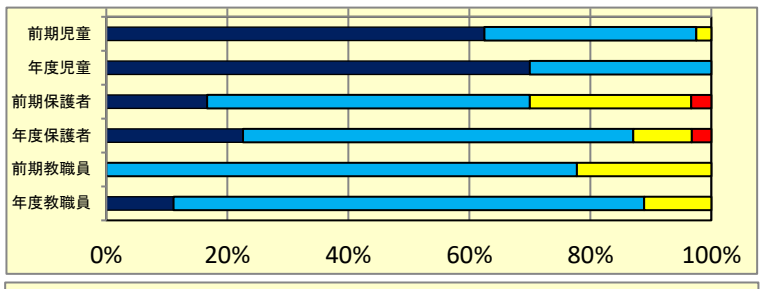
（13）基礎基本の確かな定着
〇 家庭学習や授業中の練習問題などにがんばって取り組んでいる。
□ ペア・グループを活用した学び合いやパワーアップタイム、家庭学習強調週間の実施は、基礎的な学習の定着につながっていると思うか。
■ はつらつと学び合う場の推進　パワーアップタイム等の継続実施により子どもの学力が定着しているか。

（13）



（14）表現力を高める読書活動
〇 読書タイムに静かに読書したり家で学校から借りた本や家にある本を読んだりしている。
□ 朝読書や読み聞かせ会、読書環境の整備、親子読書の奨励によって読書への関心が高まっていると思うか。
■ 読書、読み聞かせ、親子読書により表現力を高めているか。

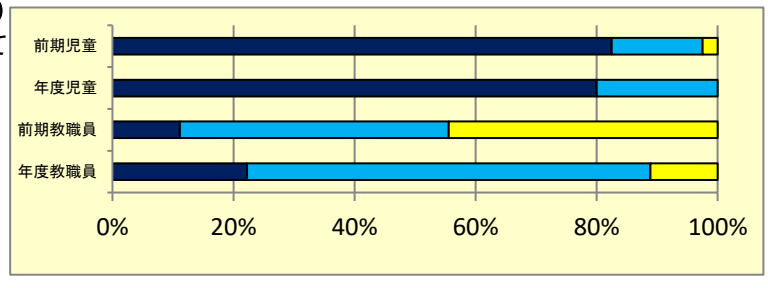
（14）



〔8　授業改善と学力向上〕

（15）授業力向上研修・学び合いの充実
〇 授業中に友達の考えをしっかり聞いたり、自分の考えを発表したりしている。
■ 授業改善、学び合いの充実が図られているか。

（15）



（16）諸検査の状況

令和7年度 秋田県学習状況調査（秋田県比）

	4年	秋田県	5年	秋田県	6年	秋田県
国語	82.6	78.3	81.9	76.5		
算数	83.3	66.1	72.2	61.8		
理科	75	71.5	62.3	65.9		
社会			69.1	68.7		

★ICTの活用
タブレットや付箋を使用しての意見交流。

★はつらつタイムの場の設定
電子黒板を使用し全体での話合いの場の設定。

イ　学校運営の状況

Ⅴ　教育課程・教育環境

学校の状況		学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
教育課程と教育環境の充実に向かって，チーム早口として組織的，主体的に取り組んでいる。	前期	**良好**	**良好**	地域や近隣の学校の協力を仰いでの徒渡りや元気農園の活動など、充実した取組ができている。がんばり山や玄関入口階段の修復など安全に配慮しながら環境を整えている。トイレの和式が地域からの来客に大変なところもあるので検討したい。
	年度	**良好**	**良好**	定期的な点検を生かし、古くなってきた校舎を有効に活用できるよう、LED化やステージの幕など適切な修繕等による改善が図られている。トイレの改善が必要とされてきており、高齢化が進む地域住民の来校や行事への参加協力を進めるためにも洋式化を検討していきたい。

学校評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】
〇活動の積み重ねを大事にし、一人一人が主体性をもって「早口川の徒渡り」を行った。これまで以上に幅広くPR活動したことで参加者も増え、大人数で行事を盛り上げることができた。暑さや川の水量が懸念されたが、こまめな水分補給や低学年の渡る場所を工夫するなどして、参加者全員が川渡りを実感することができた。さつまいもの苗植えでも5年生を中心に保小連携を図って全校児童で関わり合って活動することができた。→年々、児童数が減少していく中でどのように活動の継続を図っていくかを模索しながら、ふるさとキャリア教育の充実に向けた実践を重ねていきたい。
〇毎日の見回りと毎月１回の安全点検を通し、児童が安全に過ごすことができるように努めてきた。複式学級の教室整備としては、児童の実態や教科の特性に応じてよりよい学習が提供できるよう、教室内を仕切るパーテーションや移動黒板を活用し、2学年同じ教室で学習したり、教科によって別々の教室で学習したり、パソコン室などの広い教室を使用したりするなど、最適な学習環境を工夫してきた。今年度は、教育委員会に要望していた遊具の補修もしていただいた。→安全点検を継続するとともに、全職員が危機管理意識をもって取り組み、複式学級については、今後も必要な備品や教室環境を整えていきたい。

【年度（→次年度）】
〇感謝の思いを地域に届けることをめざして、全校体制で収穫に関わる活動を実施することができた。昨年度から始めた早口市日での販売は、地域の方々にも好評で、子どもたちも地域とのつながりを感じられる大切な活動となった。→児童数の減少から活動の仕方の見直しが必要である。全校体制での地域貢献活動のあり方を考えていきたい。
〇待望のがんばり山の修繕終了を受けて、夏休み明けにPTA親子奉仕作業として遊具のペンキ塗りを行った。安全でカラフルな遊具となり、早小のシンボルであることを改めて感じる活動となった。また、学習発表会前に体育館ステージの緞帳補修も行うことができ、少人数での係活動の負担減にもなった。→図書室のリニューアル等、今後も子どもたちの充実した教育活動実現のため、環境整備に努めていきたい。

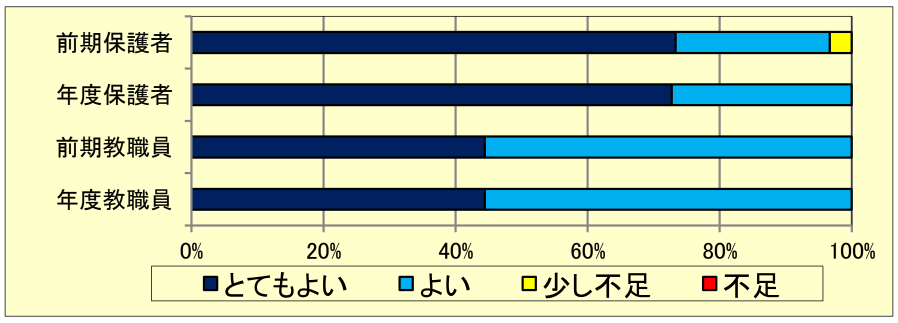
評価指標	実践課題	主な取組	学校評価B 前期	学校評価B 年度
9　特色ある学校づくり	（17）特色ある教育課程の編成と実施	「自立・感謝・貢献」を核としたふるさとキャリア教育の充実,特色を生かし効果的に教育課程を実施するカリキュラムマネジメント	**4**	**4**
10　教育環境の充実	（18）施設設備・環境の整備	定期的な施設・設備の点検　学習環境の整備　予算の有効活用	**4**	**4**

★実践　〇児童　□保護者　■教職員

(17)特色ある教育課程の編成と実施

□ 学校は，はつらつ元気農園活動の継続や徒渡りなどの「はつらつプロジェクト」を通して，特色あるふるさとキャリア教育を進めていると思うか。

■「自尊・自立・貢献」を核としたふるさとキャリア教育などの教育課程の編成と実施により，特色ある学校づくりを行っているか。

（17）


【はつらつ弁当レシピ作り】
三四年生が、収穫されたサツマイモのレシピを考え、はつらつ弁当として社会福祉協議会に提案するため、保護者の協力を得ながら調理活動を行った。

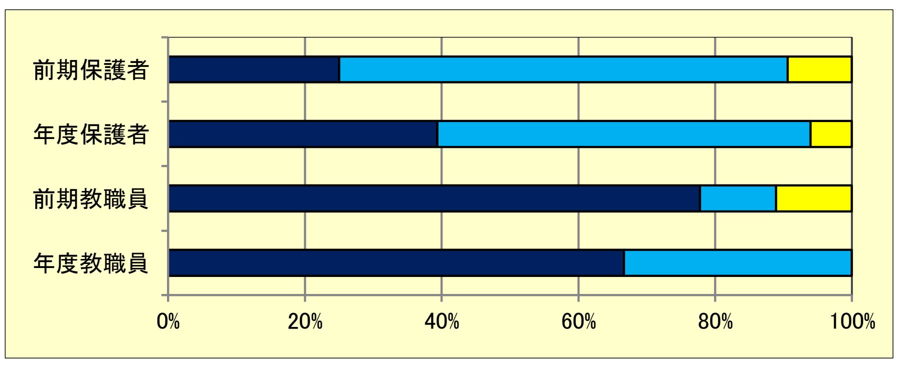
【さつまいも掘り】
五年生を中心に、はつらつ班（縦割り）で活動した。幼保連携でたしろ保育園年長児も参加し、交流を深めながら芋掘りを楽しんだ。

★【米・芋の販売】
五年生が、米とさつまいもの販売活動を行った。市日では、ＳＮＳやチラシでの事前のＰＲの効果で、時間前からたくさんの方々が訪れ、あっという間に完売してしまうほどであった。

(18)定期的な施設設備の点検　学習環境の整備

□ 学校の周りや校内の施設・設備，学習環境は安全に整備されているか。

■ 定期的な施設設備の点検と補修・環境整備，予算の有効活用が図られているか。

（18）


★今年度修繕済の施設・環境整備

ステージ緞帳の電動化

がんばり山の補修・ペンキ塗り

★ 継続して要望していくもの
プールトイレの男女兼用解消と簡易水洗化

イ 学校運営の状況

Ⅵ 保護者・地域との連携

学校の状況		学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取り組みを分かりやすく保護者や地域に伝えており、地域の教育力が有効に活用されている。	前期	良好	良好	150周年を意識して行事を運営したことで、地域や保護者の協力を得て児童減少に負けない活気を示し、地域に元気と感謝を届けている。クラブの指導や寄付や寄贈などたくさんの方に支えられていることを子どもや保護者、先生方で共有できた。
	年度	良好	良好	行事が地域に広く伝えられ地域の力を活用できている。クラブ指導や地域行事への参加依頼への対応が難しくなってきている。地域行事の運営も難しくなってきている児童数減少の中でも、アンケートをとるなどして実態に合わせできることを継続していきたい。

学校評価の概要と学校の改善策

【前期(→年度)】
〇150周年を意識した学校報の定期的な地域配付やホームページの更新等で、学校行事や子どもたちの様子を特集を組むなどして保護者や地域にお知らせしている。また、各学年のお便りで学級での子どもたちの学習面や生活面の様子を写真を入れながら保護者に伝えている。その他連絡帳や電話、メールを使って、保護者と連携を図っている。さらに保健だよりを活用し、子どもたちの健康面についても情報を提供し保護者と連携した取組ができるように努めている。→保護者のアンケートでは、やや不足が昨年よりも減少しているがまだある。これまで以上に情報交換を密に行い、ニーズを受け止めながら、家庭との連携を図っていきたい。
〇学校運営協議会のスタートで、熟議を行うなど順調なスタートを切ることができた。PTA、地域ボランティアについては、150周年を意識して例年以上の実施ができている。クラブ活動や元気農園、田植えは、同様に外部の方を講師に、指導していただいている。→2学期以降の学校行事についても、学校運営協議会のご意見を大切にしながら、本校の強みを生かし、地域のお力をお借りしながら、学びを還元できる貢献につながるよう連携を進めたい。

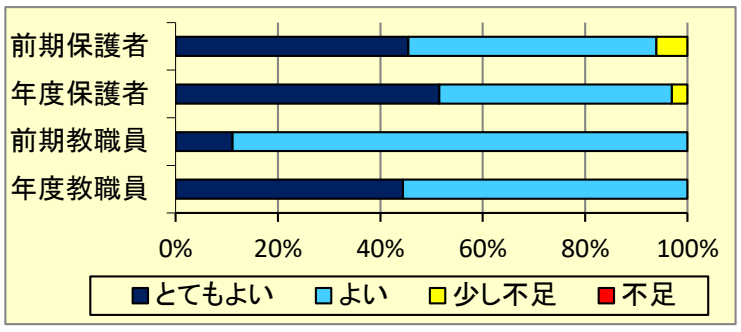
【年度(→次年度)】
〇学校報の毎月の地域配付やホームページの定期的な更新学年だより等での情報発信を続けている。150周年記念事業では、保護者によるWEB掲載の協力があった。行事を掲載したブログは、WEBサービスの停止とPCの入替により、中断した。学校と保護者の連携については、保護者の平均評価は3．41であった。学校行事に、地域のたくさんの方々からご指導やご協力をいただき、その様子、をより具体的に伝えてきたことの成果であると思われる。また、メディアコントロールについては情報を「保健だより」を通じて提供し、PTAで「親子すいみん学習」を実施するなど、家庭への啓発を図ってきたこともよい評価につながっていると思われる。→引き続き、児童はもとより家族の健康に関わる詳しい情報提供ができるよう努めたい。
〇保護者・地域の協力体制が非常によい。→本校独自の徒渡りをはじめ、様々な教育活動を今後も行うことができるよう、引き続き保護者への協力の求め方、後援会や地域への協力要請など、多くの意見を聞いて工夫していきたい。クラブの外部要請による発表は、児童減に伴い検討が必要である。

	実践課題	主な取組	学校評価B 前期	学校評価B 後期
11 地域・家庭との連携	(19) 家庭・地域への情報発信・受信・相互理解	学校報の家庭・地区配布　ホームページ更新　各種通信　情報発信による「チーム早口」啓発活動	4	4
	(20) 学校評価の計画的実施と充実	PDCAサイクルの機能化　学校評価アンケートの活用　学校評価だより・評価書の家庭・地域への開示(HP)	4	4
12 地域の教育力の活用	(21) 保護者との連携や地域素材・人材の活用	PTA・保護者ボランティア・クラブ活動指導者との連携　地域学校協働本部事業の活用	4	4

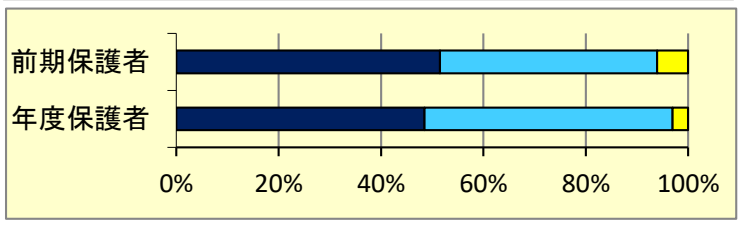
★実践　〇児童　□保護者　■教職員

(19)家庭・地域への情報受発信・相互理解
□ 学校報、学年だより、学校HPやブログなどは、学校や子どもたちの様子を分かりやすく伝えていると思うか。
■ 学校報・各種通信の配付、HP・ブログ等での情報受発信による「チーム早口」啓発活動により、教育活動が分かりやすく伝えられているか。

(19)

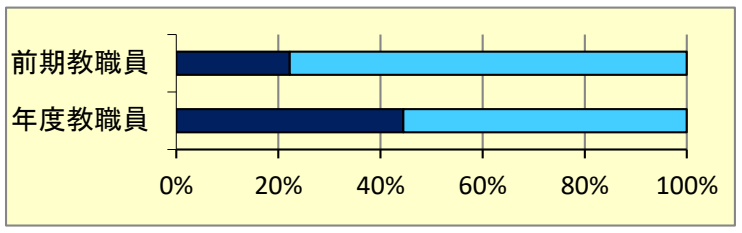


□ 学校は、連絡帳や個人面談、その他の情報交換により、保護者との連携を行っていると思うか。



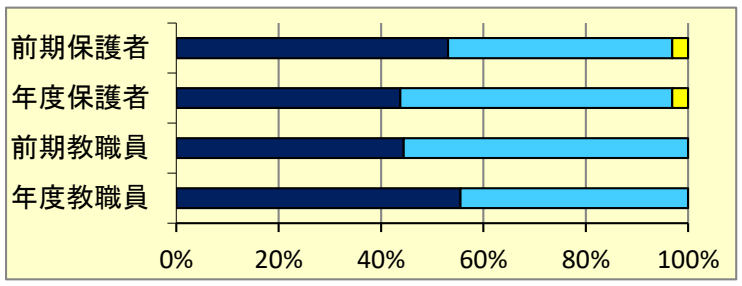
(20) 学校評価の計画的実施と充実
■ 学校評価アンケート活用　学校評価だより・評価書の配付が計画的に行われているか。

(20)



(21) 保護者との連携や地域素材・人材の活用
□ 学校は、PTA活動や様々な行事、各教科学習、クラブ活動などで、保護者や地域の教育力を活用していると思うか。
■ PTA・地域ボランティア・クラブ活動指導者との連携や、学校運営協議会を生かした家庭・地域との連携、地域学校協働本部事業を活用しているか。

(21)



★さつまいも大収穫へのご指導と協力
元気農園では、JA職員、高坂さん、コーディネーターの佐藤稔さんのご協力により、昨年に引き続き豊作となりました。また、早口朝市や保護者への販売活動を継続し、ありがとう集会では、お世話になった皆さんにプレゼントし地域とのつながりを強くすることができた。

★田植え、稲刈り体験
今年度も、佐藤幸英様・スミ子様のご指導で、5年生が生産から販売までの”貴重な米体験”を行うことができた。

★外部指導者によるクラブ活動
クラブで外部指導者にご指導いただき、学習発表会、記念集会、地区文化祭などで発表するなど充実した活動を行うことができた。